

## FavorPrep™ MicroElute PCR Clean Up Kit

Cat: FAMPK 000B (4 回分) / FAMPK 001B (50 回分) / FAMPK 001-1B (100 回分)

本製品は研究用です

v 221024

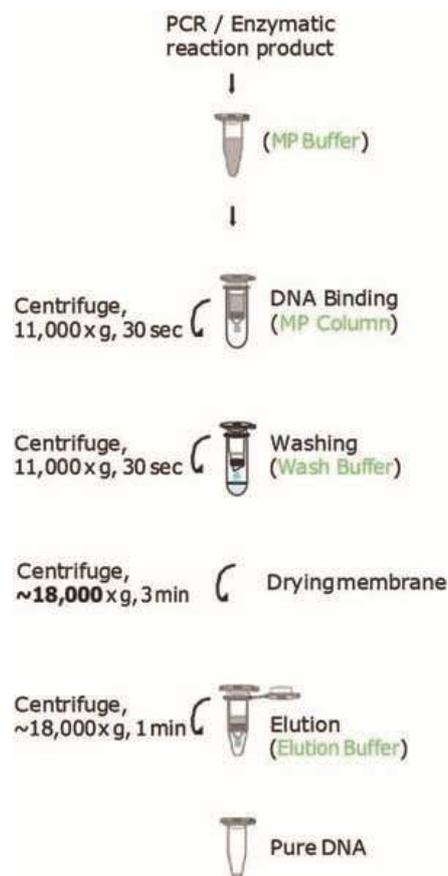
### 📦 キットの内容

	FAMPK 000B (4 preps_sample)	FAMPK 001B (50 preps)	FAMPK 001-1B (100 preps)
MP Buffer	3 ml	30 ml	60 ml
Wash Buffer (concentrated)*	1 ml	12.5 ml	22.5 ml
Elution Buffer	0.5 ml	5 ml	5 ml
MP Columns**	4 pcs	10 pcs × 5	10 pcs × 10
Collection Tube	4 pcs	50 pcs	100 pcs
添加する 96-100%エタノール量			
Wash Buffer (concentrated)*	4 ml	50 ml	90 ml

\*\*MP Column はフィルターの劣化防止のため受取後、4~8°Cで保存してください。

### 📋 基本情報

構成	スピナラム (シリカメンブレン)
結合量	5 µg
サンプル量	最大 100 µl (PCR 産物)
DNA サイズ	65 bp~10 kbp
回収率	80%~90% (PCR 産物)
操作時間	15 分
最少溶出量	10 ul



### 📌 重要事項

1. 本製品を使用する際は、白衣とゴム手袋を着用してください。
2. Wash Buffer は必要量のエタノール(96~100%)を加えてから使用してください。
3. 遠心分離は、11,000~18,000 × gで行ってください。

**+** **操作** ※操作前に「重要事項」をよくお読みください。

1. 10-100  $\mu$ l までの PCR 産物又は酵素反応液を 1.5 ml マイクロ遠心チューブ(お客さまでご用意ください)に移し、サンプル量に対して 5 倍量の MP Buffer を加え、ボルテックスで混和します。

※例: 50  $\mu$ l のサンプルへ 250  $\mu$ l の MP Buffer を加えてください。

※酵素反応から DNA を濃縮・精製する場合、サンプル量 100  $\mu$ l (DNA 断片量 5  $\mu$ g) が限度です。100  $\mu$ l 以上のサンプルを処理する場合は、複数のチューブを使用してください。

2. MP Column を Collection Tube へ取り付け、サンプル溶液を MP Column に移します。
3. 11,000  $\times$  g $\sim$ 18,000  $\times$  g で 1 分間遠心分離し、ろ液を捨てます。
4. 600  $\mu$ l の Wash Buffer (事前にエタノールを加えてください) を MP Column に加え、11,000  $\times$  g $\sim$ 18,000  $\times$  g で 1 分間遠心分離し、ろ液を捨てます。  
※Wash Buffer 開封時にエタノール (96-100 %) が添加されていることを確認してください。
5.  $\sim$ 18,000  $\times$  g で 3 分間遠心分離し、MP Column を乾燥させます。  
重要: このステップで残留液体を完全に除去する必要があります。
6. 乾燥させた MP Column を新しい 1.5 ml マイクロ遠心チューブ(お客さまでご用意ください)へ取り付けます。
7.  $\geq$ 10  $\mu$ l の Elution Buffer または ddH<sub>2</sub>O (pH7.0 $\sim$ 8.5) を MP Column のメンブレン中央部に添加します。MP Column 膜に完全に吸着されるまで 2 分間静置してください。  
重要なステップ: 効率よく溶出させるため、Elution Buffer をカラム膜中央へ加え、完全に吸着させてください。  
**重要: 10 $\mu$ l 以下で溶出しないでください。収量が減少します。**
8.  $\sim$ 18,000  $\times$  g で 1 分間遠心分離し、精製した DNA を溶出します。  
\* 10  $\mu$ l の Elution Buffer を使用した場合、平均 9  $\mu$ l 溶出できます。

### 🔧 トラブルシューティング

トラブル	考えられる原因	解法
低収量	サンプル量が多い(100 µl 以上)	100 µl 以上のサンプルを処理する場合は、複数のチューブを使用して処理してください。
	溶出ステップに不備がある	Elution Buffer や ddH <sub>2</sub> O の pH が 7.0-8.5 であることを確認してください。
		溶出液がカラムメンブレンに完全に吸収されたことを確認してから遠心分離を行う。
5 kb より大きな DNA 断片を処理する場合	60°C に温めた Elution Buffer を使用して効率よく溶出してください。	
精製した DNA がその後のアプリケーションでよい結果が出ない	溶出した DNA に塩が残留している	カラムを Wash Buffer で 2 回洗浄してください。
	溶出した DNA にエタノールが残留している	Wash Buffer で洗浄した後のろ液を廃棄し、さらに 3 分間遠心分離を行い、カラムを乾燥させてください。